

授業づくり (P)

◇単元について

教科等	国語科	対象学年等	小学部1グループ (3年1名、4年2名、5年2名、6年2名)
単元名	かめくんのさんぽ		
単元目標【観点】 <b>A</b>	① 正しい姿勢で音読する。【知識及び技能】特小3ア(カ) ② 絵本を読み、挿絵と結び付けて登場人物の行動や場面の様子などを想像する。 【思考力、判断力、表現力等】特小3読むことア ③ 言葉がもつよさを感じるとともに、思いや考えを伝えたり受け止めたりしようとする。【学びに向かう力、人間性等】特小3		
単元設定の理由 (教材観)	<p>「読むこと」の学習では、これまで「構造と内容の把握」の指導事項を中心に取 り扱ってきた。児童は絵本の内容を把握したり、想像したことを表出したりするた めに、登場人物の動きの動作化や劇遊びに取り組んできた。動作化・劇遊びは絵本 の内容を体験したり、児童の主体的な表出を引き出したりする効果はあったもの の、一方で、児童が本当に絵本の内容を把握して表出しているのか、活動そのもの への興味が強くなり、絵本から離れた表出になっているのではないか、という課題 も挙げられた。また、在籍児童の発達段階上、自他の視点が育っていない段階で役 を演じることが難しいことも課題となった。そこで、本単元では、動作化・劇遊び に代わる内容把握や表出のための手段を設定し、実践していくこととした。</p> <p>絵本「かめくんのさんぽ」(なかのひろたか作・絵/福音館書店)は、主人公のか めくんが出会った動物を散歩に誘うものの、動物達がお昼寝中だったため、みんな の背中の上を散歩していくという物語である。話の構成は繰り返しが多く、場面も ほとんど変わらないため、児童にとっては展開が捉えやすい。また、文章量が多 すぎず、かつ少なすぎないことから、児童の実態にも合っており、叙述から内容(場 面の様子や登場人物の行動)をとらえることができると考える。また、内容理解や 表出の手段としてペープサートを用いる。ペープサートを1人1セット用意するこ とで、実際に児童が自ら登場人物の動きを再現することができるようにする。</p>		
授業充実の視点 (学習・指導方法) <b>B</b>	主	① 1回の授業で扱う場面を限定することで、文章量を減らし、無理なく音読できる ようにする。 ② ペープサートを1人1セット用意し、自ら進んで考え、表出できる環境を設定す る。	
	対	①ペープサートを操作する様子を録画し、授業の最後に全体で共有することで、自 分のペープサートの操作と比べたり、次回のペープサート操作に生かしたりでき るようにする。	
	深	①絵本、ペープサートともに1人1セット用意することで、自分のペースで絵本を 読み、各々が理解できたと感じた段階で、自由にペープサートに移行できるよ うにする。また、ペープサートに何度も取り組んだり、やり直したりしながら、内 容理解を深めたり、表出の幅を広げたりできるようにする。	

単元計画			評価計画			
次 (配時)	ねらい	学習活動	知	思	主	評価方法
1 (1)	絵本の一場面を読み、挿絵と結び付けて登場人物の行動や場面の様子をペープサートで表現しようとする。	・読み聞かせ ・わにくんとシーンを音読し、ペープサートで表現する。	①	②		行動の観察 (音読、ペープサート)
2 (0.5)		・読み聞かせ ・かばくんとシーンを音読し、ペープサートで表現する。	①	②		
2 (1)		・読み聞かせ ・ぞうくんとシーンを音読し、ペープサートで表現する。	①	②	③	

◇小学校との学びの連続性を確保するにあたって

本単元で参考とした題材	おじいさんとねずみのおはなし (特☆3)
小一特の比較・分析 (内容・指導方法など)	<p>小学校国語科の「読むこと」では、叙述を基に登場人物の行動を想像することが指導事項となっており、小学校国語科への接続を考える上で、叙述に注目し、叙述を読んだり、叙述から内容を把握したりする学習を取り入れる必要がある。</p> <p>本単元では、叙述に注目するための指導として、音読を取り入れることとした。音読について、小学校学習指導要領と特別支援学校学習指導要領で共通して指導事項に示されており、小学校学習指導要領では全学年で指導事項として取り上げられている。小1・2学年の知識及び技能の指導事項では、「語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること」とされており、小学部3段階の知識及び技能の指導事項では、「正しい姿勢で音読すること」とされている。このことから、小学校との接続を考える上で、叙述に含まれる言葉に注目する指導として音読は重要であると考えた。</p> <p>在籍児童の実態として、実態の差に応じて支援は必要であるものの、3～5語文程度の短い文章であれば、読むことができている。一方で、叙述に着目することが少ない様子も見られ、叙述を自ら読む経験を増やしていく必要がある。</p> <p>加えて、本単元では、読み聞かせだけでなく、絵本を1人1冊用意し、自ら絵本を手に取り読むことができるようにした。読書について、小学部3段階の知識及び技能の指導事項では、読み聞かせられた絵本を自ら手に取ることや、読書を通して情報を得たり、考えを広げたりする力の育成を目指すことが述べられており、小1・2年の知識及び技能の指導事項では、「読書に親しむこと」に重点を置くこととされていることから、小学校国語科への接続を考える上で、読み聞かせから読書へと移行していく必要があると考えた。</p> <p>在籍児童の実態として、これまでの本校小学部の実践から、1人1冊絵本を用意することで自ら絵本を読み、内容理解が深まる姿が見られている。その一方で、自ら手に取る機会はまだまだ少なく、読み聞かせの比重が大きいいため、国語</p>

	科の授業の中で、自ら絵本を読む機会を意図的に設定していきたい。
小学校の指導事項を取り上げる（接続する）にあたっての手だて【C】	<p>① 音読場面では、1コマで扱う場面を限定し、音読時間を長めに設定した。また、読む箇所を教師が指で指し示すようにした。</p> <p>② 本時で取り上げる場面を分かりやすくするため、場面を限定して絵本を提示する。また、それぞれが手元に絵本を置くことのできる環境を設定することで、ペープサートでの表現の際に絵本に立ち返ることができるようにする。</p> <p>③ 本校は1コマ40分で授業を行っているが、本単元は1コマ20分で行っている。これは、小学校への接続を念頭に入門期教育の考え方を参考にしたためであり、児童の発達段階を考慮し、より集中して学習に臨めるよう、20分以内の学習活動を2つ組み合わせるで行うこととした。ただし、1つ目の学習では、2つ目で扱う絵本に関する言葉を扱うようにし、関連を持たせるようにした。</p>

### 授業（D）

※学習指導案等参照（研究授業等のみ）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等			総時数
		話す・聞く	書く	読む	
実施時数	2.5 ●			● 2.5	2.5
小学校における指導時数					

※1単位時間に満たない時数の場合は「\*」で表記する。

### 学習評価（C）

◇評価規準 【A欄に対応】

知識・技能	正しい姿勢で音読している。
思考・判断・表現	「読むこと」において、絵本を読み、挿絵と結び付けて登場人物の行動や場面の様子などを想像している。
主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつよさを感じるとともに、思いや考えを伝えたり受け止めたりしようとしている。

◇児童生徒の学習状況

【A：「十分満足できる」状況 B：「おおむね満足できる」状況 C：「努力を要する」状況】

観点 児童生徒	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	B	B	B
	B	B	B
	B	B	B
	B	B	B
	B	B	B
	B	B	B
	B	B	B

※Aの場合は特に優れている点、Cの場合はBを実現するために教師が行った指導を記述する。

## 指導評価 (C)

◇実践の分析・考察 【B欄に対応】

【指導評価】◎：十分に有効 ○：概ね有効 △：課題が見られる ×：要改善

主体的な学び	対話的な学び	深い学び
① ◎      ② △	① ○	① ◎

※△・×の場合は「改善 (A)」欄に改善策を記述する。

◇小学校の指導事項を取り上げる（接続する）にあたっての手だての評価 【C欄に対応】

成果	課題
<p>① 場面を限定する、時間を長めに設定する、指で指し示す等の手立ては、初めて音読という学習に取り組む児童にとって、無理なく進んで取り組める有効な手だてだった。</p> <p>② それぞれが手元に絵本を置くことのできる環境を設定することで、ペープサートでの表現の際に絵本に立ち返ることができた。</p> <p>③ 20分にすることで、集中した状態を持続しながら活動に取り組むことができていた。</p>	<p>① ペープサートを用意することで、自由に進んで表現できると考えていたが、児童の一人がペープサートの操作に戸惑っていた。その場で支援をすることで改善されたが、児童によっては、操作物が変わったり、絵本が変わったりした際に、般化することが難しいという課題が残った。</p>

## 改善 (A)

操作物や絵本を変えながら、定期的にペープサートに取り組むことで、1つの表出手段として定着を図り、自信をもって操作できるようにする必要がある。